



●北千住の La ZAPPA での集い

6月1日(土)の11時半から2時間、足の悪い永田を考慮して選んでいただいた東京都足立区北千住の、上記のお店で、色彩教材研究会の吉澤主査、山根副主査、陣出幹事、渡邊幹事、北畠顧問、DICの竹下さん、藤川氏、秦野氏と永田が参加して、昼食を兼ねたミーティングがありました。

江戸時代からの北千住の宿場通りから東側に入った毎日通り飲食店街にある古い宿場町のわかりにくい小さなお店です。竹下さんとはコロナ以来の懐かしい再会でした。

話題は、色彩教材研究会のことが中心でした。私が調べた色彩学会員の著書一覧を主査に完成を委託しました。また、先般のギャラリートークが好評だったので、関西方面でもやって見ようという話も出ました。DICの方もいらしたので、DIC館林の顔料工場の見学会も企画できますなどという、思いがけない話も出ました。

コロナの流行以前は、支部や研究会などの会議の後には、必ず飲み会があり、ここでの話が、今後の活動の企画に当てられていたことを、お互いに思い出して、今日のような昼飲み会の企画も捨てたものではないという、結論を自画自賛した会でした。(永田泰弘)

言葉凸凹 RGB と CMYK

RGBはRed、Green、Blueの光の3原色の頭文字です。CMYKはCyan、Magenta、Yellow、Blackのプロセス印刷の4原色の頭文字です。この4色を昔は黄紅藍墨と呼んでいました。

RGBはテレビやパソコンの色を、3色の原色の量の調整で表現しようとする技術です。人間の眼が3色型の視覚を持っていることに起因しています。RGBの放射を重ね合わせると白色光になります。一方、CMYの100%の印刷色を重ねると黒色の色になります。

プロセス印刷で黒が加えられているのは、文字の表現に重点が置かれた結果とも言えます。CMYの重ね合わせでも黒色の表現はできますが、文字の黒を3色の重ね合わせで表現することは、技術的にも、経済的にも不適當と言わざるを得ません。

これらが現代社会で採用されている色再現の技術です。考えてみれば、教室で使う色彩教育の教材は、色紙や絵の具、印刷などを使ったパネル類と、パワーポイントなどによる映写型の教材では真反対の色再現システムを使っているわけです。

これからはAIと動画を使った本格的な色彩教材の時代になるでしょう。(永田泰弘)

●万葉集のなかの色 -11

白波の 千重に来寄する 住吉の
岸の黄土に にほひて行かな
車持朝臣千年(巻六-932)

「黄土」は「ハニフ」と読み、黄色の土を指す。
丈夫は 御獵に立たし 少女らは
赤裳裾引く 清き浜廻を

山部宿禰赤人(巻6-1001)

廷臣たちは天皇お出ましの狩に従い、女官たちは赤い裾を引いて戯れることだ。清らかな浜のめぐりを。

紅に 深く染みにし 情かも
寧樂の京師に 年の経ぬべき

作者不審(巻6-1044)

紅のような都ぶりに深く染まった我が心よ。奈良の都は荒れたままに年が経てもいいのであろうか。

咲く花の 色はかはらず ももしきの
大宮人ぞ 立ち易りける (巻6-1061)

色という文字もこの時代に成立していた。

武庫川の 水脈を早みか 赤駒の
足掻く激に 濡れにけるかも

(巻7-1141)

赤駒の足掻きにほとばしる飛沫で濡れてしまったことよ。

*講談社文庫・中西進・万葉集から(永田泰弘)